

講義名	統計調査法		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	智原 あゆみ		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限		
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2019年度 人間社会学部 観光学科 / 2019年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2019年度 経済学部 経済情報学科 / 2019年度 経済学部 経済学科 / 2019年度 商学部 マーケティング学科 / 2019年度 商学部 経営学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		講義コード	51023

主題と概要

現代社会では、あらゆるところで数量データが多用されている。数量データは、現状の把握や将来の予測にはなくてはならないものである。また企業や組織のなかで問題提起や意思決定をする場合、データに基づいた客観性が求められる。データの中から必要な情報を正しく読み取って理解し、新しい知識を創造するためには、データの収集と分析、思考のための技法を身につけなければならない。そこで、どのような統計調査があり、どのように利用されているかを種々の統計調査を通して理解する。つぎに調査によるデータ収集の具体的な技法を学び、自らの問題意識に基づいた研究計画の立案からデータの収集と分析、結論の導出、発表に至るプロセスを学ぶ。

本授業では、統計調査に使える資料の探し方やデータのアーカイブを紹介し、調査の基本について学習する。それらのデータを使用し、各自の問題意識を調査データと結びつけ、仮説から結果の導出までを体験する。

到達目標

- ・統計データの種類、活用方法の理解
- ・問題の発見、仮説の設定、問題定義に至るリサーチプロセスの理解
- ・調査を計画、実施、分析、報告書作成に至る一連の過程の理解

提出課題

毎回、授業で復習問題を課す。
中間課題として、調査企画書（アンケート用紙作成を含む）の提出。

評価の基準

平常点、提出物（論文・レポートなど）、試験
復習課題、中間課題、期末試験の結果から総合的に評価する。配分は、平常点：10%、提出物：20%、試験：70%。

履修にあたっての注意・助言他

教科書

・新・社会調査へのアプローチ—論理と方法— 大谷信介・木下栄二・後藤範 ミネルヴァ書房
章・小松洋

プリント資料及び参考文献

授業中にプリントを配布する。

授業計画

- 1 統計調査法とは
- 2 仮説の立て方
- 3 調査の準備(調査設計)
- 4 調査の準備(項目)
- 5 統計データの利用(アーカイブ分析1)
- 6 統計データの利用(アーカイブ分析2)
- 7 標本調査の方法: サンプリング
- 8 標本調査の方法: 質問紙
- 9 データの回収とクリーニング
- 10 データの種類
- 11 分析の種類(記述統計)
- 12 分析の種類(推測統計)
- 13 結果のまとめ方(仮説の検証)
- 14 結果のまとめ方(論議)
- 15 まとめ

予習・復習

予習：授業で取り上げる内容について教科書の該当箇所を事前に指示するので、目を通しておくこと。
復習：授業の際にプリントを配布するので、そのプリントに基づいて重要なキーワード等を中心に復習しておくこと。
また、中間課題として受講者自身の関心に沿ったミニレポート（それぞれでテーマを定め、調査の企画を行う）を課すため、日頃から社会で起こっていることについて興味関心を持っておくこと。

備考